

会議議事録

会議名	平成 28 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 28 年 7 月 21 日 (木曜日) 10:00~12:00 (2.0h)
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：入野 豊委員 (非営利活動法人大田区介護支援専門員連絡会理事長)、丸山泰一委員 (社会福祉法人池上長寿園たまがわ事業部門統括事業所長 (計 2 名)) ②本校委員：橋本正樹 (校長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、熊谷 崇 (介護福祉科教員)、宮下昭久 (事務局長)、榊原幸之 (広報室長) (計 5 名) ③オブザーバー：武石稔弘 (介護福祉科教員)、松下 薫 (介護福祉科教員) (計 2 名) ④事務局：手塚理恵子、高橋 稔 (参加者合計 11 名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付： □資料 1：平成 27 年度第 2 回教育課程編成委員会議事録、□資料 2：平成 27 年度重点目標の年度末点検報告、□資料 3：平成 27 年度学科運営計画の年度末点検報告、□資料 4：平成 27 年度第 2 回委員会における説明と現状、□資料 5：平成 28 年度生介護福祉科カリキュラム、□資料 6：平成 28 年度生カリキュラムの中間報告、□資料 7：地域包括ケアシステムに関連する外部講師による講義・中間報告、□資料 8：研修報告書 ②本日配付： □資料 9：平成 28 年度委員名簿、□資料 10：前回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 28 年度校務分掌、別添 B：平成 28 年度学事日程、別添 C：平成 28 年オープンキャンパス日程、別添 D：平成 28 年度クラス担任一覧、別添 H：平成 28 年度 W C S P スケジュール)、□資料 11：平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法、□資料 12：平成 28 年度学科運営計画、□資料 13：平成 28 年度教員研修計画、□資料 14：訪問介護の仕事について、□資料 15：平成 28 年度介護実習の予定 ③本日配付印刷物資料： □平成 29 年度入学案内書・募集要項、□平成 28 年度講義要項、□平成 28 年学生生活ガイド、□2016Challenge 就職活動ノート、□平成 28 年度卒業研究 ④回覧資料： □ 1：平成 26 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の年度末点検報告、□ 2：平成 27 年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検中項目)、□ 3：平成 27 年度活動の自己評価報告書 (点検大項目)、□ 4：平成 27 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の進捗報告
委員長	橋本校長
議題等	1. 今年度委員の確認及び本日出席の新任者紹介 (説明者：事務局高橋) 事務局より、資料 9 に基づき委員の確認が行われた。また、榊原委員の所属が異動により学務課帳から広報室長、委員会の事務局に学務課の手塚が加わったことについて報告が行われた。

2. 校長挨拶

橋本校長より、本日出席の企業等委員の方々への謝辞の後、本校は、看護科の開設を契機に「医療と福祉の専門学校」として学科間の連携を強化し、他校との差別化を図っていく。また、社会人、外国人を対象とする教育の可能性を視野に入れつつ、平成30年度以降の18歳人口急減期に対応するための学科再編計画に着手している。今後も、その流れの中で引き続き教育の可視化、教育の質保証に取り組み、「2-40プロジェクト」に示した「選ばれる学校（プレステージ・スクール）」を目指していく。

今年度は、介護福祉科の職業実践専門課程の認定申請を予定している。また、次の時代に向けた新たな動きを具体化していく年という認識のもと、業務改善を事業計画の大きなテーマとした。本日も教育課程編成委員会の先生方から福祉系の教育活動について、外の視点からの貴重なご意見を伺いたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋）

最初に本委員会の議事録の作成方法について事務局より説明が行われた後、橋本委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 平成27年度第2回委員会以降の活動報告等について

(1) 本校の平成27年度重点目標の年度末点検結果（説明者：橋本校長）

資料2に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 平成27年度学科運営計画の年度末点検報告（説明者：岩上学科長）

資料3に基づき報告が行われ、確認、了承された。なお、委員よりマナー指導、卒業研究、訓練生の就職状況について質問があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成27年度第2回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長、事務局高橋）

資料10（別添A～H）に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、委員よりオープンキャンパスについて質問、意見があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 本校の平成28年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）

資料11に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成28年度の学科教育と学科運営について

(1) 平成28年度生のカリキュラムと教育のポイント（説明者：岩上学科長、熊谷教員）

資料4～7、資料14に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、委員より新設科目について質問、意見があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

また、学科より授業の内容、進め方等について助言をお願いし、委員から情報の提

供が行われた。詳細は別紙のとおり。

(2) 教員研修（説明者：岩上学科長）

資料 8 に基づき前回報告以降の研修報告、及び資料 13 に基づき平成 28 年度教員研修計画について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成 28 年度学科運営計画（説明者：岩上学科長）

資料 12 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。なお、委員より学生募集活動と国家試験についてについて質問、意見があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

(4) 平成 28 年度介護実習（説明者：武石教員）

資料 15 に基づき行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

本委員会は年 2 回の開催であり、次回は 2～3 月を予定している。10 月に各委員の予定をお伺いして日程調整を行う、次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ①平成 28 年度学科運営の進捗報告
- ②平成 28 年度カリキュラムと教育の実施状況報告
- ③平成 29 年度教育に向けて

最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

別紙

平成 28 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 27 年度第 2 回委員会以降の活動報告等について

(1) 本校の平成 27 年度重点目標の年度末点検結果

○橋本校長より、資料 2 に基づき以下の報告が行われた。

・昨年度挙げた 3 つの重点目標（① T P C の育成と強化、② 退学防止、③ 教員研修）については、十分に成果が上げきれていない状況にある。

① T P C の育成と強化は、教育研究誌による呼びかけと情報共有、アクティブラーニングの取り組み、年度初めのオリエンテーションの場などを活用して、引き続き工夫しながら進めていく。28 年度は校務分掌の中に新たに募集広報協議会と進路指導協議会を設置した。教員と事務職員が連携を深めて、一緒に学生を育てていくことを推進していきたい。

② 退学防止については、3 月末現在で退学者が 48 名、退学率は 5.9%（前年 4.5%）となり、目標の 3.5% は達成できなかった。医療事務系の学科で 1 つのクラスから 7～8 人の退学者が出るケースがあったが、介護福祉科は退学者が少なく、学習継続率が非常に高い。今年度もミスマッチの防止、退学事例の共有等により、退学防止に努めたい。

③ 教員研修のうち授業公開は常勤教員の中で数年試みているが、なかなかうまく働いていない。透明性や授業の見える化につながるものであり、教職員が互いに学び合っていくことは必要だと思うので、今後もこの方向で進めていく。さらに、学内で年 2 回やっている教職員研修会、学外の研修会への参加、さらには教育研究誌等に自分の考えを発表するという流れを推進していきたい。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(2) 平成 27 年度学科運営計画の年度末点検報告

○岩上学科長より、資料 3 に基づき以下の報告が行われた。

・27 年度は国家試験、在宅介護に重点を置いたカリキュラムの編成を行った。

・実習先については、グループホーム、複合型サービスセンター、老人保健施設を新規開拓し、第 1 段階で学生を配置した。28 年度に向けては 4 施設（特別養護老人ホーム、小規模多機能、グループホーム、ホームヘルパーステーション）を新規開拓し、実習を予定している。

・介護実習については、修了した時点で必ず実習報告会を実施している。2 年生は第 3 段階の実習でケーススタディーをまとめ、2 月に発表を行っている。

・日ごろの学校生活を通して挨拶から始まるマナーということで指導を行っている。社会人としての態度なども常に意識して学生に伝えているが、訓練生は認識が違い、うまくいかないところもある。

・研修は、介養協の関東信越ブロックの研修と全国研修に参加しているほか、実習施設の見学、居宅介護事業所主催のセミナー、事業団主催の実習報告会に参加し、最新の現場の状況の把握と授業の見直しをしている。

・国家試験については、カリキュラム編成を行い、科目の見直しなどを行っている。

・実習指導者懇談会を 2 年に 1 回実施し、現場の指導者から情報や意見を取り入れて教育に生かしている。

・学科のイベントやキャリアサポートプログラムに対して訓練生の参加が非常に悪いため、28 年度に見直しを行っている。

- ・離職者再就職訓練生1名の1年次の第2段階実習が中止になったが、不足分の再実習を2年次の7月に行い、全ての実習を修了して卒業している。
- ・就職内定率は、最終的には13名、72.2%になっている。
- ・退学者は1名で、理由は就職のためである。年間退学率は達成できている。

○企業等委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

①マナー指導について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□マナーを高める指導に関して、訓練生はどの辺でご苦労されているのか。	□基本的なマナー、一般的な常識の部分も本科生のほうが理解できている。訓練生はルールを守れず、自分の主張を優先するところがあり、指導は難しい。
□私がここで教鞭をとっていたころは本科生と訓練生とでクラスが分かれており、訓練生のほうが熱心で質問もいっぱい来て、キャッチボールができた。	□今年卒業した学生は、本科生と訓練生でクラスを分けていた。それだけにわがままも出やすい環境であり、実習先の悪口をAクラスの学生が聞いて、介護に対する熱が低下してしまうという影響もあった。今の2年生は本科生と訓練生が一緒のクラスになっているが、お互いに遠慮や協力をし合うよい関係が成り立っている。

②実習報告会について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□実習報告会ではどんな報告が多いのか。	□施設に対する批判ではなく、実習で何を学んだかについて報告するようにしている。2年生は30名いるので、30通りのストーリーを共有しようという試みでもある。

③就職について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□訓練生で就職できなかった人はどうしているのか。	□訓練生にそろそろ調査の依頼を送る。未決定の方には比較的年齢の高い方が含まれているので、レギュラーの形で仕事をするのは難しい方もあると思う。 □実習も含め、介護に対する熱がない人が就職につながっていない面もある。

(3)平成27年度第2回委員会以降の主な経過

○事務局高橋、宮下事務局長より、担当する項目について、資料10（別添A～H）に基づき平成27年度第2回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 平成28年度の組織運営関連

- ・平成28年度校務分掌（別添A）
- ・平成28年度学事日程（別添B）
- ・平成28年オープンキャンパス日程（別添C）

- ・平成 28 年度クラス担任一覧（別添D）

2. 自己点検・自己評価関連

- ・学校関係者評価委員会において以下を報告している。

3 / 25 平成 27 年度第 3 回委員会	6 / 25 平成 28 年度第 1 回委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の年度末点検報告（回覧資料 1） ・平成 27 年度重点目標の年度末点検報告（資料 2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検中項目）（回覧資料 2） ・平成 27 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）（回覧資料 3） ・平成 27 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の進捗報告（回覧資料 4） ・平成 28 年度重点目標と達成するための計画・方法（資料 11）

3. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・3月末の退学（除籍を含む）データ。
- ・平成 28 年度からは個人情報削除した「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学ネットに掲載して、指導、支援に必要な情報を共有して退学防止に役立てている。

(2) 就職活動の状況

- ・3月末での内定状況。
- ・学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・平成 28 年度WCSPスケジュール（別添H）

○企業等委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

①オープンキャンパスについて

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□オープンキャンパスに参加された方の男女比は。	<p>□女性のほうが多く、7対3ぐらいかと思う。</p> <p>□AO入試を既に2回実施し、介護福祉科は3名のエントリーがあった。そのうち男性が2名、女性が1名となっている。</p>

5. 本校の平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法について

○橋本校長より、資料 11 に基づき以下の説明が行われた。

- ・重点目標は昨年度と同様だが、今年はやり方を工夫して一歩進めていきたい。
- ①TPCの育成と強化については、募集広報協議会、進路指導協議会と連携して、各学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを再確認する中で取り組んでいきたい。先行事例（エビデンス）の共有のためのツールとして教育研究誌への発表なども考えている。
- ②退学防止については、介護福祉科は問題ないが、学校全体として教職員間の連携の強化、退学防止成功事例、難しい事例等の共有、モチベーションの喚起等の工夫をしてミスマッチを減らしていきたい。
- ③教員研修は、授業公開を今年度は教務委員会が主管し、校長が主体となって半ば強制的に行う。可能であれば非常勤の先生にも参加していただき、互いに学び合う形にしたい。また、例年どおり学内及

び学外の研修会にも参加してもらう。今年度の夏の研修はアクティブラーニングをテーマとした。さらに、教育研究誌に教員だけではなく事務職員も発表することとした。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

6. 平成 28 年度の学科教育と学科運営について

(1) 平成 28 年度生のカリキュラムと教育のポイント

○熊谷教員より、資料 4～7 に基づき以下の説明が行われた。

(ア) 平成 28 年度生カリキュラムの中間報告

- ・今年の 1 年生から新カリキュラム（資料 5）のもとに実施し、約 4 分の 1 が終わろうとしている。28 年度生カリキュラム編成の目的として以下の 3 点を挙げた。
 - ①利用者への理解を深めるための幅広い知識を涵養しつつ、専門的知識及び技術を習得すること
 - ②今後さらなる需要が確実視される在宅及び地域密着型サービスへの理解を深めること
 - ③国家試験を視野に入れた科目の編成及び開講期の見直しをすること
- ・新設または変更をした科目の中間報告として、まず「日本文化論」という科目を開講した。これは、社会人として必要なマナーについて学ぶと同時に、高齢者を意識して季節の歳時や昔遊びなどを学ぶものである。
- ・「社会の理解」は、以前「生活と福祉」という科目で教えていたものを「社会の理解Ⅰ・Ⅱ」とし、合計で 6 単位とした。「社会の理解Ⅰ」は 1 年生通年で行う。2 人以上の人がいるところが社会であることを教え、まずは家族、次に地域、最終的には国家という形で社会保障制度に関する授業を展開し、1 年生の後期には社会保障制度の各論に移っていく予定である。「社会の理解Ⅱ」は 2 年生の前期で開講を予定している。
- ・「介護福祉ゼミ」は前期のみで実施しているが、全ての基本である文章を読む、書く、発表するという部分に重点を置いている。具体的には、冒頭の 3 分間スピーチ、「天声人語」の書き写し、題名付けなどである。同時に自己 PR のまとめと発表、7 月 4 日には幸田文の「木」というエッセーを読み、文章の読解を深めている。その他に国家試験の概要等を伝え、休み明けには「10 年後の私」について 800 字でまとめる作業を行う。
- ・地域包括ケアシステムに関連する外部講師による講義・中間報告（資料 7）については、6 月 20 日に、7 月～8 月に行われる在宅介護実習に先立って株式会社クールヘッドによるオリエンテーションを実施した。
- ・その前に訪問介護に関する授業と訪問介護実習に関する説明を 1 コマずつ実施しているので、教育と現場の視点から在宅介護を見ることによって、学生の理解も深まったと感じている。
- ・今後の計画は、28 年 10～11 月ごろを目安として、社会福祉法人多摩済生医療団、小平市地域包括支援センターの方に「地域包括ケアシステムの実際」について授業をしていただく予定である。

○岩上学科長より資料 4～6 に基づき以下の説明が行われた。

- ・「医療的ケア」については、1 年後期で集中して講義を行っていたが、今年度は 1 年前期から開始した。
- ・「こころとからだのしくみ」の担当教員と連携し、経管栄養と喀痰吸引、臓器に関する講義を早めてもらっている。前期では総論、後期で各論的な部分に入っていく。総論については演習やグループワークを取り入れて、楽しんでやれるよう工夫しているが、人数が少ないので教員が方向づけをして進めている。

(イ) 国家試験対応に向けての中間報告

○熊谷教員よりスライドに基づき以下の説明が行われた。

①資格取得方法の一元化について

- ・法改正の経過を説明し、全ての資格取得ルートにおいて一定の教育プロセスと国家試験が必要となった。本校では国家試験に全員合格するように頑張っていく。

②国家試験の概要

- ・先日発表された第 29 回の介護福祉士国家試験の概要を踏まえて、新たに「医療的ケア」の問題が入ることと合格基準について学生に伝えた。

③本校の現状

- ・今年 3 月に卒業した 18 期生のデータをもとに、介護福祉士養成施設協会が全国一斉に実施する卒業時共通試験について報告。合格基準を上回ったのは 45 名中 35 名、合格率は 77.77%となるが、このときは特別な国家試験対策はしていなかった。
- ・「社会の理解」、「認知症の理解」、「障害の理解」が全国平均から大きく下回っていることから、専門的知識が問われる科目を苦手としている傾向がうかがえた。

④受験のポイント

- ・合格率に惑わされずに、合格ラインである総得点の 6 割を取ること。そのためには基本的な問題を確実に解いていくことがポイントである。試験委員は毎年同じメンバーで、出題傾向は似ていることから、まずは過去問題を解くこと、特に傾向が変わる 24 回以降の問題を最低 3 回解くことを伝えた。

⑤今後のスケジュール

- ・スケジュールを伝える前に、既に国家試験を踏まえたカリキュラム編成をしていること、開講期を前倒して、2 年生の後期には国家試験対策に集中できるようにしていることを説明した。
- ・今後は、各試験問題の形式やパターンについての説明、保護者会の実施（8 月 27 日（土曜日））、1 年生後期から 2 年生の前期終了までは段階的に過去問に取り組み、それ以後模擬試験や 11 月にある福祉事務管理技能検定の受験をして、最終的に 1 月末、国家試験の受験というスケジュールになる。
- ・国家試験不合格者への対応については、万が一不合格の場合でもそれ以後の対策授業に参加できるようにしたい。同じく国家試験を受験する鍼灸医療科、看護科と相談しながら整備していくことを検討している段階である。

(ウ) 「介護実習の手引き」作成

○岩上学科長より以下の説明が行われた。

- ・実習に関する手引きを武石教員にまとめてもらっている。現在、最終的な調整中であり、来年の新入生を迎えるまでには作成したい。

○企業等委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

①新設科目について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□カリキュラムの中の「日本文化論」や「社会の理解」は受けてみたいと思う。今、高校生の採用を増やしているが、高校教育では仕事の基本が教えられていない。その点で専門学校の優位性はあると思う。	□「日本文化論」は、学生からも一番楽しいという話が出ている。今回はマナーに重点を置いたが、次年度以降は在宅という部分を意識して、訪問したときの靴の脱ぎ方、ふすまの開け方なども学ぶような展開を考えている。

○授業内容と進め方に関する学科からの質問と回答は次のとおり。

②KYTについて

学科からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 医療的ケアのKYTは、どのようにやっているのか。 <input type="checkbox"/> 医療や介護の現場を想定した図を使って、危険箇所をチェックし、どうすれば回避できるかをグループワークで行っている。 <input type="checkbox"/> 施設ではそういうことを要求しているのか。	<input type="checkbox"/> 私たちは図だけでなく、介護職員がおばあさん役や介護職員の役を演じて、その映像を見ながらどこが危ないかというような研修をしている。
<input type="checkbox"/> 医療的ケア以外のところでもKYTをやっているか。	<input type="checkbox"/> 普段の生活全般に利用している。考えるには、最初にキャッチするところが大事なので、その部分をKYTでやっている。

③地域包括ケアシステムの教育内容について

学科からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 地域包括ケアシステムの仕組みについて、今、どのような課題があり、そこをどうしたら改善できるかという講義をしたいと考えているが、実態はどうか。また、教育について何かアイデアをいただけないか。	<input type="checkbox"/> 大田区で3～4年前に区民向けのアンケートをとったとき、6～7割の方がボランティアや地域貢献に興味があると答えたものの、実際に参加できる方は2～3割だった。そういう現実の中で地域の方々にどう参加してもらうかは非常に大きな課題だが、現段階では各事業者が主体的に動いて、そこに若干住民の方を巻き込んでいくという状況である。 <input type="checkbox"/> 地域包括ケアは、国から地域力が試されている。一個人や一事業者では到底太刀打ちできない課題で、行政の力が影響してくると思う。中心となる包括支援センターの人の考え方や意欲にも関係するので、やはり学校では概要説明で終わってしまうかと思う。 <input type="checkbox"/> 地域格差は今後さらに顕著になっていくのではないかと。尾道方式は人口が少ないので顔の見える関係性がつくれるが、人口の多い世田谷区や大田区で顔の見えるネットワークをつくっていくのは至難のわざだと思う。 <input type="checkbox"/> 地域包括ケアは、生活圏域が枠になる。その枠組みと包括ケアの現実が一緒になってくれば第一段階のハードルはクリアできる。次に医療との関係、地元との関係というハードルを全部クリアしていったら初めてできる話なので、大都市圏では難しい。
<input type="checkbox"/> 訪問介護や通所介護が地域支援事業に移行したということは、市区町村が裁量を持つことになる。それは地域格差もある程度覚悟した上での政策とも思えるが、地域ならではのところを授業で取り込むのは	<input type="checkbox"/> 安易で無責任な言い方をすると、若い皆さんがこれからそれを担っていく責務があるとか、つくっていく立場にいるということを訴えることはできると思うが、希望を持って加わっても大都市圏では徒手空拳で、気がついたら燃え尽きてしまっていたということ

<p>難しいので、総論となる仕組みそのものに留めておいたほうが混乱せずに済むのかもしれない。</p> <p>□地域住民の主体的な参加がポイントで、その中にいかに若い人たちがかかわっていくかという点も伝えていきたい。</p>	<p>もなきにしもあらずだと思う。</p> <p>□そういう意欲を持った人たちが地域にばらばらにいるのではなく、それをつなぐのが私たちの仕事ではないかと思う。</p>
<p>□厚労省が想定している地域支援事業の中のミニデイサービスやごみ出しのボランティアは、実際に動き始めているのか。</p> <p>□卒業生はほとんどが施設等に就職しているので、地域の話はほとんど入ってこない。</p>	<p>□世田谷区では、介護保険が始まる前から、社会福祉協議会がバックアップする形で地域の方が自宅を開放したり、地域のデイサービスの少し空いている時間帯を借りて、月に1回とか隔週で行う細かな市民活動レベルのものがあって、そこを総合事業との兼ね合いでどう融合させていくか模索段階にある。</p> <p>□新総合事業の緩和Bがミニデイやごみ出しに当たるが、今は、基準づくりや体制整備の段階で、先行している品川などでも混乱している。首都圏の中でうまくいっているところは聞いたことがない。</p> <p>□その辺の情報は、学校に何か入ってきていないか。</p>

(2) 教員研修

○岩上学科長より資料8と資料13に基づき以下の説明が行われた。

(ア) 前回報告以降の研修報告（資料8）

- ・平成27年度の教員研修は、計画通り実施することができた。

(イ) 平成28年度教員研修計画（資料13）

- ・平成28年度の教員研修では、前回、丸山先生に相談した大田区の職員向けの研修を実現したいので、またご相談させていただきたい。
- ・5月に、今年卒業した卒業生が2名就職している施設を見学した。
- ・5月28日にYMCA開校40周年記念で「コミュニケーション技術」の講演会があり、参加した。
- ・日本医療企画介護ビジョン編集部が主催した外国人材に関する市場、日本語と介護教育の教え方についての研修に、今後の外国人受け入れという視野に入れて松下教員が参加した。
- ・介養協の関東信越ブロック（高崎）と全国（仙台）の研修に参加を予定している。
- ・11月4日、公益社団法人日本障害者リハビリテーション協会が主催する研修に参加する。介護予防、地域包括ケアと地域実践等、介護分野においても関連するテーマが議論される予定である。
- ・8月26日に教務委員会の校内研修としてアクティブラーニングの研修、9月12日に東京消防庁の上級救命講習会に参加予定である。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(3) 平成28年度学科運営計画

○岩上学科長より資料12に基づき以下の説明が行われた。

- ・新たなカリキュラムが進行中なので、その結果は1年後に出てくると思う。

- ・国家試験が一番大きな課題で、受験の方向で進めている。科会において過去5年分の国家試験問題をCD-Rに入れて配付したほか、各担当科目の教諭に国家試験問題を授業や試験の中に取り入れてもらうよう依頼し、チェック表を進度表とともに記載してもらっている。
- ・TPCについては、各授業の中でグループワークや文章で表現する、相手に伝えるというところを行っている。「日本文化論」については、今後、外国人の受け入れも視野に入れて授業を開始している。
- ・訓練生については、キャリアサポートプログラムを今年度から任意ではなく参加してもらうことにしている。
- ・介護福祉ゼミについては、1年生から必修として行っている。
- ・学生募集については、事業所との連携による学生募集について、たまたま丸山先生のところに1名就職している学生がいる。現場からの声としてビデオや直接来ていただいて話してもらうなど、卒業生を巻き込んでいくことを検討していきたい。そのほか広報と連携して、ガイダンスを8回ほど行っている。

○企業等委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

④学生募集活動について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 卒業生を通じたパイプづくりはぜひこちらからもお願いしたい。卒業生がきらきら輝いていて、介護についてPRをしてくれるといいと思う。	<input type="checkbox"/> 具体的に進めていきたい。 <input type="checkbox"/> 介護については募集が厳しく、今年度も全国的に入学定員の50%程度で推移している。訓練生についてもさまざま問題はあるが、現状は2名なので同じクラスでやっている。本科生にとってもいい刺激になるような組み合わせができていると思う。

⑤国家試験について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 現場では以前は実務経験で受験できたものが、仕事を休んで実務者研修に行かなければならない。そこを事業者側がどこまでフォローできるかというところもあるが、資格を取ってもまた国家試験となったことで、現場ではハードル高くなった印象がある。	<input type="checkbox"/> 国家試験については今年度入学した人たちから対象になる。法改正が3月ぎりぎりだったので、夏に保護者会等でもう一回説明することになっている。

(4)平成28年度介護実習

○武石教員より資料15に基づき以下の説明が行われた。

- ・1年生は6月9日～24日で12日間の第1段階実習を終了した。
- ・今回は、江古田の森と原町ホームにおいて、一つの施設で特養、グループホーム、小規模多機能の実習を経験させてもらうことができた。和光苑は先方の都合により特養だけになってしまったが、偏った実習という面は改善されたと思う。

- ・一つの施設での3種別の実習は、新しい試みとして1年生から始めてみた。学生数が減っていることもあってうまく実現できたと思う。
 - ・訪問介護実習については、全部で9つの事業所に割り振っている。当初の予定では7月～12月となっていたが、これも人数が減った関係で7月～8月で2日間の日程を全部終了するように予定を組むことができた。
 - ・第3段階実習は、9月～12月にかけて24日間を既に割り振りしている。全部で15の施設等で介護過程の展開を実習する。
 - ・第2段階実習についてはこれから割り振りをするところだが、2月～3月にかけて19日間で行う予定である。
- 説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

以上